

日本語の二重否定モダリティ

——二重否定の型と発話機能の事例から——

大堀 裕美

要 旨

日本語の二重否定モダリティ用法は二種あり、そのうち外部二重否定になっているものを二重否定モダリティとする。二重否定モダリティは、対話の中で相手の発話を直接容認、または否認できない場合など（例えば社会立場的に上の人への主張、反論、非難、ネガティブな命題や感情表出など）に発話される。結果的に、対話の中で発話される二重否定モダリティは、話者の聴者に対する配慮表現機能や、話者自身の嫌われたくないという欲求のネガティブフェイスを守る言語行動としての機能を担っている。また、事態・相手の両方がめあての二重否定モダリティというカテゴリーは、新たな第3モダリティという枠組みに属することを主張する。

キーワード: 外部二重否定、二重否定モダリティ、配慮表現、発話機能

1. はじめに

本稿ではまず、日本語の二重否定モダリティとは何かを示す。従来二重否定と認定されていた表現形式を否定作用域からみた3つの型を述べる。その後、二重否定モダリティと認定されるものを明らかにする。次に、発話機能別に採取した二重否定モダリティ表現を示すことにする。結果的に、それらの表現は慣習化し、配慮表現として使用されていることを示す。最後に二重否定モダリティは、従来のモダリティ研究の二分法のどちらの意味機能も合わせもつ第3のモダリティであることを主張する。

2. 先行研究による二重否定とモダリティの関連

日本語の二重否定表現の先行研究を遡ってみると、当該表現はあまりモダリティ論として積極的に論じられてこなかったことがわかる。詳細な論は別紙に譲るとするが、その原因として考えられることはいくつかある。まず、モダリティ研究が主として命題めあてのモダリティと聞き手めあてのモダリティに二分されてきたことである。それは寺村（1985）の推量の助動詞や、「たぶん」などの陳述の副詞、「こそ」などの取り立て詞を「対事的ムード」と呼び、一方で、終助詞や動詞の命令形や意向形や敬語表現を「対人的ムード」とする研究が代表的である。そして寺村（1992）で論じられた、モダリティは命題に対する話し手の判断のあり方を表すものというのが共通認識となった。その後、モダリティそのものの働きや下位分類の名称は、日本語記述文法研究会（2003）、益岡（2007）などにより、細かい見解が分かれていった。近年早川（2012）のようにモダリティはすべて主観的な判断であるとする研究もあり、話し手が聞き手に主観的判断をどう伝えるかを明らかにする材料として、ポライトネスや配慮表現の領域からの研究も発展している。

2.1. 二重否定表現の型

日本語の二重否定の研究は、二重否定の定義をした陶（1991）や、二重否定の表現形式を整理した林（2005）などがある。管見によれば二重否定をモダリティとして認定しているものは見当たらなかった。二重否定をモダリティ認定するために重要なのは、否定域が命題側もしくはモダリティ側でどう作用しているかという作用域の立て分け概念の確立である。本稿は、大堀（2020:7）で述べた、命題とモダリティの解釈原理中右（1994）を引き続いて参考にしていく。中右（同）は、英語の二重否定の解釈原理について論じたものであるが、その原理を参考にして日本語の二重否定の構造を考えると、次の3つのような否定作用域の型で分類できる。（ここでは便宜上、筆者の作例を使用する。）

【日本語の二重否定の作用域の3種類】

- ① 明けない夜はない。→内部二重否定
- ② あいつに勝てない／気がしない。→内部否定＋外部否定
- ③ 頑張れば勝てそうな／気がしないでもない。→外部二重否定

*／は命題とモダリティの境界を表す。

中右（同）の二重否定解釈論理に準じて3種類を命名すれば、①は「明けない」の「ない」と「夜はない」の「ない」が、命題の側に完全に入り込んでいる。したがって、命題の内部で二重否定作用域が限定されるので、内部二重否定ということになる。②は、命題の内部に「勝てない」の「ない」があり、モダリティの内部に「気がしない」の「ない」があるので、内部否定＋外部否定の二重否定である。③は、命題が肯定であり、モダリティ内の「気がしないでもない」が二重否定になっている。よって、外部二重否定である。上述の中右（同:125）は二重否定構文において二つの否定辞の作用域が異なっていることに着目している。例えば、英語では次のような二重否定が表れる。

There was nobody /who did not eat breakfast.

だれもいなかった／朝食を食べなかった人

（モダリティ内否定）／（命題内否定）

<<https://honmono-eigo.com/kate-waho/nizyu>>,2020年7月24日参照

これは、②の日本語の二重否定の同構造とみなすことができる。しかしながら、③のような日本語の二重否定の「命題」と「モダリティ」の作用域は、英語には存在しない。

2.2. 二重否定モダリティの認定

大堀（同:13）で二重否定モダリティについて、以下のように記述した。

モダリティ二重否定型には、①形態として慣習化しており、②その全体が完全にモダリティ形式となっている、という二つの特徴がある。これらの特徴は日本語の他の二重否定にも見られる一般的な特徴であると考えられる。そうであるならば、この型の二重否定は「二重否定モダリティ」としてモダリティ形式の一類と見なすことができるはずであり、モダリティ研究全体に対して有益な示唆を与えることになる。さらに、二重否定を一つの熟した文法単位として捉えること

を重視するのであれば、日本語においては「命題否定＋モダリティ否定型」のものは二重否定と見なさず、「モダリティ二重否定型」のもののみを二重否定と見なすように二重否定の定義を変更し、あくまでもモダリティ論の範囲内で二重否定を扱うようにすることも考慮に値する提案であると考えている。また、このことは陶（1991）における二重否定の定義（2）の「否定を表す表現」の適用範囲の検討にも貢献すると考える。なぜなら、林（2005）における拡張した定義によれば、「手遅れではない」、「下手ではない」なども二重否定に含まれることになるが、この場合の「否定を表す実質語」（「手遅れ」、「下手」）は命題の一部に組み込まれており、2.1.の①と同じ内部二重否定となる。従って、「手遅れではない」、「下手ではない」の全体がモダリティとして慣習化しているとは言えない。実質語の対義を意味しているだけである。したがって、これらは新しい定義のもとでは二重否定ではないことになる。それなら、「否定を表す表現」を否定辞のみに限定すべきかという、そうとも言えない。なぜなら、「日本が観光大国であることは間違いない」の「間違いない」のように、否定辞は一つしかないが、極性としては肯定であり、命題に下接するモダリティ形式として機能し、断定の強調の意味を付加する表現として慣習化しているものは二重否定と認めてよいと考える。すると、この場合の「間違い」は否定辞ではないが「否定を表す表現」の一つと見なすことが可能であり、「～は間違いない」は二重否定モダリティの一種と認めることができるようになる。この考え方を適用すれば、「～と言っても過言ではない」、「～と言っても差し支えない」、「～に違いない」、「～にほかならない」などの機能語として成句になっている表現も、二重否定モダリティのなかに含んでよいことになる。

これをふまえて、二重否定モダリティ認定要件を以下の4点とする。

- ① 命題の述語に下接するモダリティの中に二つの否定要素全てが用いられるもの。
- ② 二つの否定要素は、二つの否定辞、または一つの否定辞と否定的意味の語彙であるもの。
- ③ 成句的表現、または否定動詞句として慣習化して機能するもの。
- ④ 命題に対して肯定の極性を付与し、そこに「強意」か「婉曲」のいずれかの意味、さらに各表現に特徴的な固有の意味を付加するもの。

3. 二重否定モダリティの種類

上述した二重否定モダリティに当てはまる表現を、具体的に挙げると次のようになる。

【表1】 ない²系

「ない」や「ず」「ざる」という否定辞が二つ重なり、文末成句的に使用される。

	二重否定モダリティ	用例	発話機能
1	気がしないでもない	相手がコマをおいた瞬間に黙ってプイと立って出て行くというのはあまり見かけないようだ。コマをおいた相手は小バカにされたような <u>気がしないでもない</u> 。事実、津雲はいくらか気をわるくしたのであった。（『桂馬の幻想』坂口安吾）	《感情表出》
2	～ないとは限らない	事故が起き <u>ないとはかぎらない</u> から、高い山に登る時はしっかり準備をしたほうがいい。（友松ほか（2007））	主張を含む 《助言》
3	～せざるをえない	マリ子：したがってこの写真は、被害者が自ら意図的に偽造したと判断 <u>せざるをえません</u> 。（「科捜研の女」2012/11/01）	《主張》

他にも、モダリティ二重否定型に属する二重否定として「～なくもない」、「～ないとはVない」、「～ないわけじゃない」「～ないこともない」「～なければならない」「～なきにしもあらず」「～ずにはVない」などがある。

【表2】 否定意味派生系

二重否定を構成する成分が、否定意味から派生した1つの語彙+1つの否定辞と融合して、成句表現のようになっているもの。

	二重否定モダリティ	用例	発話機能
4	～ないといったら嘘になる	垣岩令佳選手：（オリンピック準決勝進出を決めて）メダルを意識し <u>ないといったら嘘になる</u> けど、次も全力で戦いたい。（NHK ニュース 2012/7/31）	《意志表明》
5	～という他はない	裁判官：新川の交差点で、絶対に停止していないと強調しているのは、ことさら不自然 <u>という他はな</u> く、被告が運転していたと印象づけるものである。（NHK 特集 保険金詐欺事件の判決 2014/4/24）	《主張》
6	～と言っても差し支えない	実は、この会話を英語に翻訳することは至難の業です。意識をしない限り、不可能 <u>と言っても差し支</u> えないでしょう。（賀川『外国人との仕事に悩んだ時読む本』）	《主張》
7	～といっても過言ではない	スタイリスト：今やおしゃれな人はみんな履いている <u>といっても過言ではない</u> 靴下です。（LEE web サイト）	《主張》

他にも「～以外の何者でもない」、「～以外（に）ない」などがある。

【表 3】動詞否定句系

動詞原義に否定の意味があり、その否定形で使用されることが慣習化した動詞否定句で、それが文末でモダリティとして機能する二重否定表現。

	二重否定モダリティ	用例	発話機能
8	～偽らざる N	しかし現在、この畳をあっさり捨て去った住居づくりが大半です。「もったいない！」が私の <u>偽らざる</u> 心境です。 (中村『本物の家は「こだわり」がつくる』)	《感情表出》
9	～は否めない	国会事故調査委員：(東電は現場より) 官邸の指示を優先させてしまったことが、混乱の原因であることは <u>否めない</u> 。 (ニュースステーション 2012/7/11)	《主張》
10	～を禁じえない	つい、ここまで書いてしまったものの、思えばどうしてこんなことになったのかと、戸惑いを <u>禁じ得ません</u> 。(阿川『聞く力』)	《感情表出》
11	～かねない	恋愛に憧れても、もしそのような機会に遭遇すれば、愛という錦の御旗を立てて、いとも簡単に突っ走ってしまい <u>かねなかった</u> と思うのだった。(宮本『彗星物語』)	《主張》
12	～は否定できない	弁護士：検察が虚偽の調査書を作成したことは、(小沢被告の) 裁判にある程度影響を与えたことは <u>否定できない</u> 。 (NHK ニュース)	《主張》

他にも「～感が否めない」、「～を疑い(え)ない」、「～ことを免れない」、「～ことは避けられない」、「～を厭わない」、「～て止(や)まない」などある。

4. 対話に見られる二重否定モダリティの発話機能

3でまとめたように、二重否定モダリティはその表現形式に複数の種類があり、それはしばしば日本語での対話の文末において出現する。本節ではその用例を発話機能の観点から検討する。二重否定モダリティは言語形式に左右されない{演述}系、{表出}系発話機能が慣習化し、それによって成立した文末成句である。山岡編(2019:54)では、現状の構文論でモダリティ形式とみとめられていないものに二重否定をあげている。山岡(同)では、配慮表現の分類上は、文末表現の下位分類の1つに分類されている。配慮機能は、緩和表現の侵害抑制に属する。

4.1. 山岡(2008)の発話機能

本稿では、山岡(2008)の発話機能論を参考に、論を進めていく。そこで山岡の発話機能論を簡潔に説明する。

A:天気予報は、明日の天気どうだって?《報告要求》

B:雨みたいよ。《報告》明日サッカーやるの?《意志要求》

A:その予定だったけど、雨だったらやめようと思う。《意志表明》

ここで言うモダリティは、時制・アスペクト・ヴォイス・極性と同じく、文末形式(述語の形態)の範疇であり、～ヨウ、～ナサイ、～テモイイといった文末形式に対する範疇化であるのに対して、上述の《意志表明》などの名称群は、単に文末形式のみではなく、その発話全体がAとBの対人関係においてどんな機能を果たしているのかを示したものになっている。コミュニケーションにおいて、発話によって話者から聴者に伝達された最終的な意味のうち、それが両者の対人関係上に果たした機能を抽出して名称を与えたものだと言うことができる。これが発話機能である。

例えば、「さっさと行かないか。」という発話は、以下のように《服従》、《改善》と二つの異なった発話機能としてラベリングすることができる。

I {策動} (deontics) 《命令》のちに《服従》(2008:115)

①当該行為が参与者Bの意志によってなし得る行為であること

②通常の事態の進行において参与者Bが当該行為を実行するのは自明ではないこと

③参与者Aが参与者Bの行為を規制する権限を有していること。

発話例1: 部長Aが部下Bにとって不服な出張を命じた時の発話

発話例2: 娘Bに結婚報告をされた時、しぶしぶ婿の元へ送り出す父親Aの発話

II {策動} (deontics) の《改善要求》のちに《改善》(2008:115)

①②に加えて、

③参与者Bによる当該行為の実行は参与者B自身の権限に基づくこと

④参与者Bは現に参与者Aに不利益をもたらしていること

⑤参与者Bが該当行為を実行することを参与者Aが欲していること

発話例1: 意中の人に告白しようとした友人Bがなかなかできずに、足踏みしているのを見た時のAの発話

発話例2: 混雑している人混みで、前を歩くBが突然立ち止まったので、前に進めなくなったAの発話

4.2. {演述}系発話機能その1

《主張》の語用論的条件 山岡(2018)

会話の目的: 世界の現象に対する参与者の見解を他の参与者に伝えること

・語用論的条件:

①相手が当該命題を述べる根拠を有していないことは自明ではないこと

②当該命題は参与者の立場によって異なるものであること

・用例: 「彼の仕事ぶりに対する君の評価はどうかね」

「まあまあよく頑張っていると思いますよ」

4.2.1. 《主張要求》《主張》の例

(1)

関口：これ、専門家と政府に何かあったんですかね？《主張要求》 専門家：どうやら両者の間に、ぎくしゃくしたものがあるのは <u>否めない</u> ですね。《主張》 (サンデーモーニング 2020/6/28)
[ポライトネスと配慮] 専門家が政府への非難が最小限になるように主張を緩和。(N) ⁽¹⁾ 文末緩和表現

(2)

有働：(離婚問題で)最近では、夫が子供をつれて行くケースは増えているんですか。《主張要求》 弁護士：最近ではそういったケースが増えていると <u>言えなくはない</u> と思います。《主張》 (NHK 朝イチ 2011/11/07)
[ポライトネスと配慮] 自他の意見の相違を最小限にせよ (N) 文末緩和表現 離婚問題というネガティブな命題を肯定する話者の配慮

(3)

東野：お二方は、やっぱり声優さんにとっても大先輩なんや。《主張要求》 梶：もう、本当にお二人に憧れて声優になったと <u>いっても過言ではない</u> ですね。 賞賛を含む《主張》 (行列ができる法律事務所 2020/6/14)
[ポライトネスと配慮] 司会者に対して、自他の共感を最大限にせよ (P) ⁽²⁾ 他者への賞賛を最大限にせよ (P) 文末強調表現

4.3. {演述}系発話機能その2

《賛同》／《反論》の語用論的条件 山岡 (2018)

会話の目的：世界の現象に対する参与者どうしの見解を一致させること

・語用論的条件：

①相手が当該命題を述べる根拠を有していないことは自明ではないこと

②当該命題は参与者の立場によって異なるものであること

・用例：「彼は仕事をよく頑張っていると思いませんか」

「そうですね」／「果たしてそうでしょうか」

4.3.1. 《賛同要求》《賛同》の例

(4)

甲斐：できる男は叩かれると？ 《賛同要求》 玉井：まあ、 <u>それは否定できません</u> けど。《賛同》 (SUITS season2 第3話)
[ポライトネスと配慮]

自他の意見の相違を最小限にせよ (N) 文末緩和表現
上司の自賛ともとれる賛同要求に二重否定表現で《賛同》
皮肉的ニュアンスを付加

4.3.2. 《主張》《反論》の例

(5)

菅官房長官：東京都で新たに新型コロナウイルスの感染者が 237 確認されました。重症者は 13 人であり、都内の医療体制は逼迫している状況にはないと考えている。
《主張》
山口教授：医療体制が逼迫していないというのは誤りです。とても逼迫していないとは言えない。《反論》
(N スタ 2020/7/22)

[ポライトネスと配慮]
専門家として、政府の《主張》に対して物申したいという発言。
「逼迫していない」とした相手の発話に対して「誤りです」とはっきり否定。
その後「～ないとは言えない」で《反論》したのは、自他の意見相違を最小限にせよ (N) のポライトネス言語行動。
文末緩和表現

4.4. [演述] 系発話機能その 3

《非難》の語用論的条件 山岡 (2018)

会話の目的：参与者 B が参与者 A に対して否定的評価を与えること。

・語用論的条件：

- ① 相手が当該命題を述べる根拠を有していないことは自明ではないこと
- ② 当該命題は参与者 A またはその所有物に関するものであること
- ③ 参与者 B が述べる当該命題は参与者 A にとって望ましくないものであること

・用例：「何をやってるんだ。ミスばかりじゃないか」

「すみません」

4.4.1. 《非難》の例

(6)

曾根崎次長：当行の代表である半沢が、帝国航空さんにこのように多大なるご迷惑をおかけしているというのは、まさに東京中央銀行の恥さらしだと言わざるを得ません。《非難》
紀本常務：確かに、帝国航空からの信頼を失うことになりかねない。賛同を含む《主張》
(ドラマ「半沢直樹」第 6 話)

[ポライトネスと配慮]
「恥さらし」という強烈な非難を、文末に「～と言わざるを得ない」を付加し話者自身が嫌われない、非難されないようにする為のネガティブポライトネス。
他者への非難を最小限にせよ (N) 文末、緩和表現

「信頼を失う」という予想されるネガティブな結末を「～なりかねない」付加して緩和。
(N) 文末、緩和表現

4.5. {表出}系発話機能

《感情要求》《感情表出》の語用論的条件 山岡 (2018)

会話の目的：参加者の心情を他の参加者に伝達すること。

・語用論的条件：なし

・用例：「同窓会はどうだった」

「とても楽しかったよ」

4.5.1. 《感情要求》《感情表出》の例

(7)

糸子：私のこと、憎んでたでしょ？《感情要求》

周防の娘：糸子先生は、憎むには当たらない方だと…。それでも汚い感情が全くなかった
かと言ったら嘘になります。非難を含む《感情表出》

(「カーネーション」2014/9/24)

[ポライトネスと配慮]

娘は糸子が父の不倫相手であることから、本心では憎んでいるが、憎むという感情を全肯定して表出することはFTA。

他者への非難を最小限にせよ (N) 文末、緩和表現

4.6. 二重否定モダリティの発話機能のまとめ

4の例の検討から、二重否定モダリティが表れる発話機能をまとめると、以下のようになる。

{演述}系《主張》《賛同》《反論》《非難》

{表出}系《感情表出》

ここから一先ず言えることは、二重否定モダリティは、対話の中で相手の発話を直接容認、または否認できない場合（例えば社会立場的に上の人への主張、反論、非難、ネガティブな命題や感情表出など）に発話される。それは、話者の聴者に対する配慮表現の機能や、話者自身の嫌われたくないというネガティブフェイスを守る言語行動としての機能を担っている。

5. 第3のモダリティへの関連

本稿のまとめの前に、2で述べたことに関連して二重否定モダリティは第3のモダリティたり得るのかという問いについて再考しておくことにする。日本語の語法研究において、モダリティはこれまで以下のような共通した二分法を取ってきた。

1. 「命題」に対する話し手の心的態度のモダリティ（事態めあて）

あの男が犯人だろう

2. 聞き手に対する話者の発話・伝達のモダリティ（相手めあて）

今からすぐにそちらに向かいます。

つまり日本語のモダリティ研究は構文論の上から論じられてきたが、管見の限り、本稿で取り上げたような二重否定モダリティに関する記述は見当たらない。そして、4で検討してきた発話機能は、これまで主に語用論との関連で扱われてきた。仁田(2009:7)は、発話機能のモダリティとして次の例を挙げている。

さっさと行かないか。〈問いかけ〉

これは言語形式的には〈問いかけ〉でありながら、意味・伝達機能は〈命令〉を表している。このことはモダリティの運用論的側面の論を排除できないことを表し、仁田自らが、語用論的尺度の必要性を認めていると考えられる。山岡(2020)は、第3のモダリティの見解を具体的に示したが、その中に以下のようにある。

{演述}系発話機能が慣習化⇒単なる事態めあての第1モダリティではなく、
「事態を相手にどう伝えるかの態度」を表す⇒事態・相手の両方めあて⇒第3モダリティ

翻って、二重否定モダリティが持っている特性は次のように言うことができる。

1. 命題に対する極性がいつも肯定である⇒命題に対する話者の心的態度が明確である。(事態めあて)
2. {演述}系発話機能が示す通り、文末の緩和、強調表現に使用⇒相手にどう伝えるかのモダリティ(相手めあて)⇒「事態を相手にどう伝えるかの態度」を表す
つまり二重否定モダリティは、事態・相手の両方めあてということができ、山岡(同)が主張している第3モダリティと一致していると考えられる。

6. まとめと今後の課題

以上、日本語の二重否定モダリティには2種あり、そのうち外部否定が二重否定になっているものを二重否定モダリティと認定する根拠を論じてきた。また発話機能からみた二重否定モダリティは、対話の中で相手の発話を直接容認、または否認できない場合(例えば社会立場的に上の人への、ネガティブな命題、感情など)に発話されることがわかり、結果的に話者の聴者に対する配慮表現機能や、話者自身の嫌われたくないという欲求のネガティブフェイスを守る言語行動としての機能を担っている。そして、二重否定モダリティは構文論的には、モダリティ研究でいうところの事態・相手の両方がめあてのモダリティということになり、その{演述}系発話機能が慣習化して語用論的解釈を必須とするようになった、第3モダリティという枠組みに属することになる。今後、二重否定モダリティの個々の表現群の発話機能をポライトネスと配慮表現の双方の理論を援用して、固有の意味特徴を分析し、蓄積していく必要があると考えている。

注

- (1) の(N)はB&L(1987)のFTAを回避するための言語行動のnegative politenessを指す。
- (2) の(P)はB&L(1987)のFTAを回避するための言語行動のpositive politenessを指す。

参考文献

- 大堀裕美 (2014) 「日本語の二重否定の分類～非形式的二重否定分類への試論」『日本語コミュニケーション研究論集』第3号 25-34
- (2020) 「二重否定「～ないとは(も)限らない」の二種の型をめぐって—配慮表現としての緩和用法を中心に—」『解釈』11・12月号 6-15 澤田治美 (2006) 『モダリティ』開拓社
- 田中寛 (2007) 「否定文末表現における判断の諸相—否定の論理構造と倫理的な意味」『外国語学研究』8、大東文化大学大学院外国語学研究科 17-32
- 寺村秀夫 (1985) 「文法と日本語教育」『応用言語学講座1 日本語教育』43-68. 東京: 明治書院
- (1992) 『寺村秀夫論文集 I』くろしお出版
- 陶振孝 (1991) 「日本語の二重否定について」『日本語学』vol.10 No.6. 75-83
- 中右実 (1979) 「モダリティと命題」『英語と日本語』くろしお出版
- (1994) 『認知意味論の原理』大修館書店
- 仁田義雄 (1989) 「現代日本語モダリティの体型と構造」『日本語のモダリティ』くろしお出版
- (2009) 『日本語のモダリティとその周辺』ひつじ書房
- 日本語記述文法研究会編 (2003) 『現代日本語文法4 第8部モダリティ』くろしお出版
- 芳賀綏 (1954) 「“陳述”とは何もの？」『国語国文』第23巻第4号 京都大学国文学会
- 益岡隆志 (2007) 『日本語モダリティ探求』くろしお出版
- 宮崎和人, 安達太郎, 野田春美, 高梨信乃 (2002) 『モダリティ 新日本語文法選書4』くろしお出版
- 山岡政紀 (2008) 『発話機能論』くろしお出版
- (2016) 「『カモシレナイ』における可能性判断と対人配慮」、『言語の主観性認知とポライトネスの接点』小野正樹・李奇楠編 くろしお出版 133-150
- (2019) 「配慮表現の分類と語彙」『日本語の配慮表現の原理と諸相』くろしお出版 51-66.
- (2020) 「発話機能が慣習化した第3モダリティ」第11回日本語コミュニケーション研究会発表
- 林常楽 (2005) 「二重否定表現の一考察—形式と意味の相関関係を中心に—」『人間文化研究』第3号 27-39 長崎純心大学
- (2006) 『二重否定表現の研究』長崎純心大学博士論文
- Brown, P. and S. Levinson (1987) *Politeness: Some universals in language Usage*, Cambridge University Press.
- Leech, Geoffrey (1983) *principles of pragmatics*. London: Longman. [邦訳: 池上嘉彦・河上誓作 (訳) .1987. 『語用論』東京: 紀伊國屋書店]

用例出典

阿川佐和子（2012）『聞く力』文藝春秋

賀川洋（1999）『外国人との仕事に悩んだ時読む本』PHP 研究所

宮本輝（1998）『彗星物語』文藝春秋

友松悦子ほか（2007）『どんなときどう使う日本語文系辞典』

サンデーモーニング 2020年6月28日

ニュースステーション 2012年7月11日

NHK ニュース 2012年7月31日

Nスタ 2020年7月22日

NHK 特集 「保険金詐欺事件の判決」 2014年4月24日

行列ができる法律事務所 2020年6月14日

ドラマ「科捜研の女」 2012年11月1日

ドラマ「京都地検の女」

ドラマ「SUITS season2」第3話

ドラマ「半沢直樹」第6話

NHK 朝ドラ「カーネーション」 2014年9月24日

LEE web サイト

<<https://lee.hpplus.jp/magazine/tameshiyomi/>>, 2010年9月23日参照

少納言コーパスより

坂口安吾『桂馬の幻想』

中村昌平『本物の家は「こだわり」がつくる』

（大堀裕美、創価大学大学院博士後期課程単位取得退学、k_hiro4788@yahoo.co.jp）